

3万人のままなぞし

地域の絆が強く、安心して暮らせる本市。
しかし、[※]超高齢化社会を迎え、その安心が揺らぎかけている。
この課題を乗り越えるため、私たちが取るべき行動とは…。

※超高齢化社会…総人口に占める65歳以上の人の割合が21%を超えた社会のこと

現在の遠野市の状況です。
この数字、何だと思いませんか？

- ① 3人に1人
- ② 3軒に1軒
- ③ 年間12件

Q.

今、**「高齢者世帯」**が危ない

超高齢化社会の到来

高齢化の波は、本市にも押し寄せている！
市内の65歳以上の高齢者は、総人口約2万9千人に対し約1万人。平成26年3月末現在の高齢化率は約35・1%で、市民の約3人に1人が高齢者という割合だ。一人暮らしや夫婦で暮らす高齢者世帯は3107世帯で、約3軒に1軒という現状にある。国立社会保障・人口問題研究所の試算によれば、本市の高齢化はさらに進み、平成37年には高齢化率が約40%を越え、高齢者世帯の割合も増加すると予測されている。

孤立する高齢者世帯

高齢者世帯は、身体機能の低下により自分で外出することが困難になりがちで、それをきっかけに社会から孤立し

ていく傾向にある。少子化などによる地域の担い手不足が、地域活動の減少を招き、高齢者世帯の孤立を加速させているという見方もある。

高齢者世帯のリスク

社会から孤立している高齢者世帯には、さまざまな危険が潜んでいる。その一つが、孤独死だ。平成25年1月から12月の1年間に、市内12人の高齢者が、誰にもみとられることなく亡くなっている。数日経過して発見されたケースもあるという。このような悲しい事態が、1か月に1人の割合で起きている事を、あなたはご存じだろうか。

また、判断力が低下している高齢者は、振り込め詐欺や悪徳商法などの犯罪被害にも遭いやすい。特に、振り込め詐欺の被害は増加傾向にあり、平成25年中の県内の被害

総額は約4億2千万円にも上る。市内の高齢者が数百万円の被害に遭う事案も確認されている。

見守りを、今こそ

これらの最悪な事態を防ぐためには「高齢者世帯を地域で見守ることが大切」と遠野警察署の内田憲生活安全課長は指摘する。孤独死や犯罪被害は、近くで見守り、異変に気が付き、保護してくれる人がいれば未然に防ぐことができるからだ。特に、一緒に暮らさず、支えてくれる家族がいらない高齢者世帯は、家族に代わり地域が見守っていかねければならない。

市内の約3軒に1軒が高齢者世帯。本市も、本格的な超高齢化社会を迎えている。お互いに関心を持ち、見守り合い、支え合う地域づくりが求められている。

答え

- ① 高齢者(65歳以上)の割合
- ② 高齢者世帯の割合
- ③ 高齢者の孤独死数

※①…平成26年3月末現在②…平成26年3月末現在③…平成25年1～12月の実績

A.

地域で見守ることが大切

遠野署管内でも、高齢者世帯の孤独死や振り込め詐欺の被害が発生しています。最悪の事態を防止するためには、高齢者を社会から孤立させないことが大切です。地域行事や近所付き合い、日ごろのあいさつなどを通じ、高齢者と交流する機会をたくさんつくりましょう。地域の絆を深め、見守り合える環境作りが求められています。

Interview



遠野警察署
生活安全課長
内田 憲 さん
Ken Uchida

民間事業者 のまなざし



Topic

※地域見守り活動に関する協力協定とは

生活関連事業所 21団体が参加。官民一体の取り組みとして注目されている。協定内容は▷日常業務で気付いた顧客の異変などを市に情報提供する▷緊急時は警察署や消防署へ通報する一など。定期的に研修会を開催し、取り組み事例や、対応方法などについて情報共有を図っている。



遠野郵便局
及川 雅洋 さん
Masahiro Oikawa

お客さまも、地域も、
見守っていききたい

遠

野郵便局で配達業務などにあたっている及川さん。配達先で、高齢者が倒れているところを発見し、救助した経験を持つ。「幸い、命に別状はありませんでしたが、もし発見が遅れていたらと思うと怖いですね」と当時の状況を振り返る。配達や保険の営業などを通じて地域住民と接する機会が多いことから、遠野郵便局は本市と「地域見守り活動に関する協力協定」を締結した。一人暮らしの高齢者など、顧客の異常を察知した場合は、関係機関と連携して対応することになっている。

「郵便物を届ける際は、できるだけ手渡すよう心掛けています。サービス向上につながるだけでなく、お客様の安全を確認できるので」と及川さん。あいさつを交わしながら、一軒一軒、丁寧に配達している。手渡しできない時は、家の周囲に目を配り、異変はないか確認。ポストに新聞や手紙がたまっていたり、洗濯物がそのままだったりした場合は、顧客の身に何か起きていることが考えられるからだ。

見守り活動で孤立を防ぐ

見守り活動とは、地域の中でさりげなく“気づかい”や“目配り”をすること。早い段階で異変を察知することで、問題の深刻化を防ぐことができる。見守り活動に取り組む、民間事業者と民生児童委員に密着した。

「**ん**にちは。お元気がいいですか？ 今日

は暖かくて、いい日ですね。一人暮らしの高齢者に笑顔で話し掛ける石関さん。定期的に高齢者世帯を訪問し、日常生活の相談などに応じている。高齢者の見守り活動も、民生児童委員の取り組みの一つだ。

「何気ない会話の中から、高齢者の異変に気付くこともあるんです」と石関さん。声や表情、歩き方などにそっと目を配り、健康状態を確認。悩みごとは無いか、トラブルに巻き込まれてはいないか、会話の中から探る。高齢者が発する小さなサインに気付くことが大切だという。異変を感じれば、すぐに家族や関係機関に相談。未然に事故を防いでいる。

石関さんら綾織町の民生児童委員と主任児童委員9人は、月に一度、地域の一人暮らしの高齢者を対象にしたお茶会や健康教室なども開いている。自宅にこもりがちな高齢者に交流の場を提供し、孤立を防ぐことが目的だ。「地域とつながっている」と感じるだけで、参加者の表情は驚くほど明るくなるという。

「体力の衰えとともに、将来に不安を感じている高齢者は少なくない。でも、元気なうちは、慣れ親しんだ自宅で、地域で、自立して生活したいというのが本音なんです」と石関さんは代弁する。「見守ることしかできないけれど、その気持ちを尊重しながら、寄り添っていききたいですね」と優しいまなざしで、今日も活動にあたる。

自立する心を尊重し 寄り添っていききたい

綾織町3区
民生児童委員
石関 宏子 さん
Hiroko Ishizeki



民生児童委員 のまなざし

Information

悩みごと・困りごとは、地域の民生児童委員まで

民生児童委員は地域の身近な「相談役」として▷心身に障がいがあり暮らしに困っている▷育児や子どもの問題▷生活するお金に困っている一などの相談に応じている。市内に114人おり、各町の人口に合わせて配置。相談には、

近くに暮らす委員が親身になって対応してくれる。もちろん秘密は固く守られる。

悩み事がある人は、一人で抱え込まず、ぜひ相談を。

問い合わせ 市福祉課地域福祉係 (☎62-5111内線28)

市は、高齢者や障がい者など社会的弱者が地域から孤立することを防ぐため、民間事業所やボランティア、関係機関などと連携し、見守り活動を展開している。

本年1月には、民間事業所21団体と「地域見守り活動に関する協力協定」を締結。また、地域の相談役として活動する民生児童委員とも連携し、見守りのまなざしを幾重にも重ねている。

見守る中で気付いたサインは、市の福祉担当などに情報提供され、包括的に解決にあたっている。命にかかわる事案は、すぐに警察署や消防署などに通報される。さりげない見守り活動は、高齢者などの自立を支え、安心な地域づくりにつながっている。

3 今日から始める 3つの行動

ちょっとした目配り・気配りが、安心して暮らせるまちづくりにつながる。3つのことを心掛け、見守り活動を始めよう。

1. 見守る

あなたの自宅や職場の周囲に、高齢者世帯や障がい者、生活困窮者、子ども、被災者など、見守りが必要な人はいませんか？ もししたら、さりげなく見守ってあげましょう。



2. 気が付く

周囲の人に、何か異変はありませんか？ その気が、命を救うことにつながるかもしれません。特に高齢者世帯は▷新聞や郵便が数日たまっている▷ここ数日、姿を見せない▷元気がない▷話がかみあわない▷季節にそぐわない服装をしている—などのサインがあれば、要注意。



3. 伝える

異変を感じたら、小さなことでもいいので各種関係機関に伝えましょう。事件や事故、命にかかわる場合は、警察署や消防署にすぐに通報。それ以外の場合は、市の担当窓口や、地域の民生児童委員などに情報提供してください。

緊急連絡先

こんな時	連絡先	電話番号
事件・事故	遠野警察署	110番(62-0110)
火事・救急	遠野消防署	119番(62-2119)
福祉の相談 ▷高齢者▷障がい者▷生活困窮者▷虐待—など	遠野健康福祉の里	平日:62-5111 休日・夜間:62-5112
子育て・DVなどの相談	子育て総合支援センター	62-2111 (内線333)



Case 1 気軽に交流できる場所が、笑顔をつくる

◎仮設住宅希望の郷「絆」・サポートセンターの見守り活動

仮設住民のほか、市内に居住する被災者の支援拠点である同所。遠野市社会福祉協議会の生活支援相談員らが支援活動を展開している。同センターの交流スペースで、体操教室やお茶会などを毎日開催。笑顔で交流を楽しむ住民の姿が、そこにはあった。交流の場を提供することも、見守り活動の一つ。気軽に集えるしくみをつくり、住民の孤立を防いでいる。職員の菊池友子さんは「会話したり交流したりするうちに、人はどんどん笑顔になります。そういう場を提供しながら、寄り添っていきたいです」と意気込む。



お茶会を開き、住民同士の交流を促すサポートセンターの職員(左から2・4番目)

Case 2 地域の宝である子どもを見守っていききたい

◎ボランティア「みまもり隊」(奥友敏彦隊長、隊員13人)

同隊は、シルバー人材センター会員の有志らで組織し、平成18年から活動を継続。遠野小と遠野北小の1年生の下校時に付き添い、自宅の前まで送り届けている。駐車場の出入り口や交差点など、危険な場所では立ち止まって指導。また、仕事の合間に時間を見つけては街頭に立ち、声を掛けながら下校する子どもたちを見送っている。奥友隊長は「子どもは地域の宝です。事件や事故が起きてから行動しても遅い。起きないように、見守り活動に取り組んでいくことが大人の務めではないでしょうか」と思いを語ってくれた。



見守りながら児童たちを自宅まで送る奥友隊長

★隊員募集中…遠野市シルバー人材センター(☎62-0577)

3万人のまなざしで、地域を照らそう。

— あなたのまなざし — Your eyes

あなたのまなざしを、地域へ

誰もが安心して暮らせる地域をつくるために、私たちが取るべき行動とはなんだろう。見守る際のポイントについて紹介する。

3つの行動を

見守り活動は、いつでも、誰でも、どこでもできる。「まなざし」さえあればいいからだ。▽見守る▽気が付く▽伝える—の3つのことを行動に移そう(次ページ参照)。それだけで地域は変わる。まず、周囲に関心を持つことから始めよう。自宅や職場の周りに、高齢者世帯はないだろうか。日ごろのあいさつや近所付き合いなどを通じて、さりげなく目を配る

高齢者以外にも

上記の2つのケースを参考にしてほしい。見守りが必要なのは高齢者世帯だけではない。子どもや障がい者、生活困窮者などの社会的弱者にも見守りのまなざしが必要だ。近くにいたら、そっと見守ろう。

私たち3万人の市民は、遠野に暮らす大家族だ。大切な家族を見守るように、隣の人も優しく見守ってほしい。超高齢化社会が本市に落とす暗い影も、3万人のまなざしがあれば、きつと明るく照らすことができるはずだ。

おわり